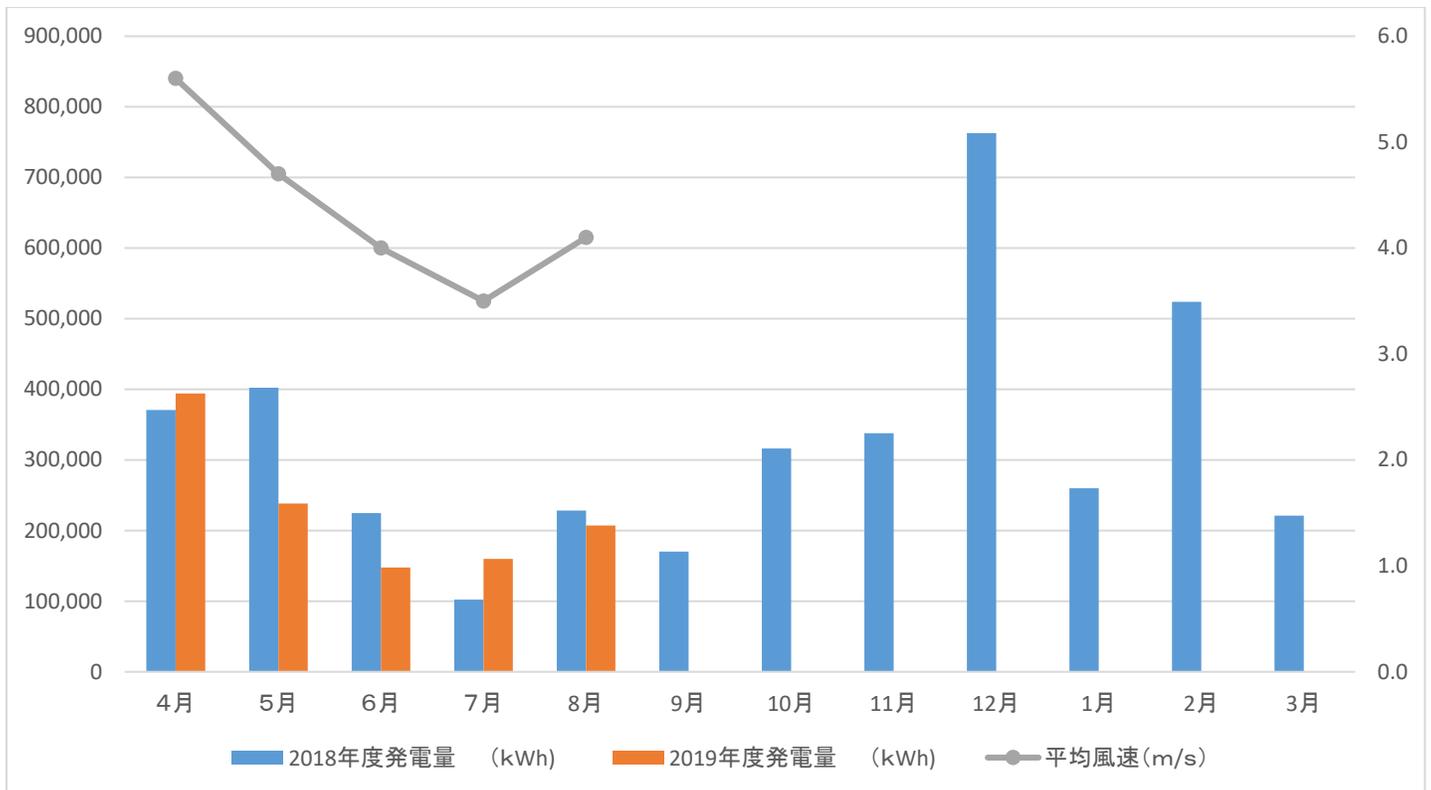


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

## ○ 発電実績



## 8月度運転状況について

- 風況は前年同月より0.2m/s 高い実績でした。
- 風車が良く発電する風速の日にちが少なかった為、発電量は前年同月比90.7%となりました。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	393,953	5.6	98.3
5月	238,301	4.7	92.4
6月	147,508	4.0	96.9
7月	159,901	3.5	99.6
8月	207,146	4.3	97.7
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

## 生活クラブ組合員リーダーツアー報告 ②

2019年7月20日(土)21日(日)、生活クラブの首都圏4単協の組合員リーダー27名が、秋田県にかほ市と山形県遊佐町で交流や視察を行いました。今回は、2日目の7月21日の様子です。

### ○伊藤製麺所の工場見学

夢風ブランド品の「タラーメン」を製造している伊藤製麺所の工場を見学しました。

見学時には、工場は稼働していませんでしたが、タラーメンのできるまでの流れを丁寧に説明頂きました。

まず、工場の1階で、粉をこねてロール状にして一旦休ませて熟成します。それを機械でゆっくりと伸ばして麺にします。棒にかけられた麺はそのまま2階の乾燥室に入り、ゆっくりと乾燥させます。気温や湿度によって麺をこねる水分量や乾燥の湿度を調整しています。乾燥した麺を手動の裁断機でカットし、袋に詰めて完成です。



写真:手前中央 伊藤実さん

組合員の方からは「機会を取り入れつつも大切にしている部分は手間暇かけて作られていることが確認出来て良

かった。」「映画の中で見るのと実際に見るのでは全然違うと思った。合理的に仕事の流れを工夫してタラーメンを作っているのだと思い、みんなで共同購入を広げようと思った。」「タラーメンが手で切って作られていることも聞けて、丁寧に作られたラーメンも皆にすすめます。」との感想が寄せられました。

### ○遊佐町の圃場見学



写真:左端 尾形長輝さん

庄内 FEC 自給圏づくりの F(食)を担う遊佐町で、遊佐町共同開発米部会会長の尾形長輝さんの圃場を見学しました。

尾形会長の栽培している遊 you 米、飼料用米、無農薬実験栽培米の圃場を見せていただき説明を頂きました。

今年は天候にも恵まれて順調に生育しており、後、一週間ぐらいで出穂するとのことでした。

良く晴れて、鳥海山と青い稲穂がさざ波の様に揺れる素敵な景色に感動しました。ただ、とても暑い日で、お話を聞いているだけで、真夏の農作業の大変さを実感しました。

## ○庄内遊佐太陽光発電所見学

遊佐町の庄内遊佐太陽光発電所を、(株)庄内自然エネルギー発電取締役であり生活クラブ神奈川専務理事の半澤専務と管理を委託している(株)CSS 東北事務所所長の菅原善悦さんに案内を頂き見学しました。

今年の2月に稼働したこの発電所は、31haに18MWの太陽電池を設置し、年間の発電量は18,000MWhで約5,700世帯分に相当するとのこと。今後は、この発電所の売電益の一部を基金として創設し「庄内FEC自給ネットワーク構想」の一環とする計画です。

組合員の方からは、「自然と共存しながら作る再生可能エネルギーだと知ることが出来ました」「日本海側より太平洋側の方が1年を通じて天気のいいイメージだったが、十分に発電することを実感」「FEC自給圏のモデルとして、にかほ・遊佐の未来は明るいと思っています」との感想をいただきました。



写真手前中央:菅原善悦さん

## 横浜みなみ生活クラブの理事会研修がにかほ市で行われました



2019年7月26日、横浜みなみ生活クラブの理事研修で、理事会メンバーとそのお子さんを含め34名がにかほ市を訪問しました。

まず、生活クラブ風車「夢風」を見学しました。(株)市民風力発電の高橋さん、黒谷さんに案内を頂き、理事の宮田さん(写真中央)がナセルに昇塔しました。

その後、風車の地主の芹田自治会を訪問し、荒川前自治会長より生活クラブ風車建設当時の生活ク

ラブと地元の皆さんとの交流についてお話を伺いました。

続いて、伊藤製麺所の工場見学を行いました。人数が多い為、2回に分かれて見学を行い、見学を待つ間にすぐ近くの伊藤製麺所のお店で買い物や、象潟港の散歩を楽しみました。

最後に、道の駅ねむの丘でのお買い物と、暑い中、盛りだくさんな一日となりました。

## 法政大学の西城戸教授ゼミの夏合宿がにかほ市で行われました

2019年8月21日～23日に、4年目となる法政大学人間環境学部の西城戸教授のゼミ合宿が、にかほ市と遊佐町、酒田市で行われました。今年も、にかほ市役所より秋田駅からの移動のバスをお借りしました。

8/21は、生活クラブ風車「夢風」を見学し、芹田自治会館で交流を行いました。8/22午前中は、にかほ市役所で、にかほ市にある風力発電や生活クラブとの関係についてレクチャーを頂き、風力発電の利益を地域にどのように還元するか、学生の皆さんがアイデアを出すワークショップを行いました。新鮮なアイデアが出たととても良かったとのことです。 <写真は西城戸教授のフェイスブックよりお借りしました>



## コラム 原発は地球温暖化対策となるのか？

原子力発電は、地球温暖化の要因となるCO<sub>2</sub>を排出しないので、地球温暖化対策として必要だという意見があります。確かに、原発は運転中だけを見ればほとんどCO<sub>2</sub>を出しませんが、ウラン採掘から濃縮、核燃料加工などたくさんのCO<sub>2</sub>を発生させています。

国が決めた2030年の電源構成では原子力の比率20～22%で、この比率を達成するには30基程度の原発再稼働が必要です。しかし福島第一原発事故後の新基準の基で再稼働できたのは9基、わずか3.1%（2017年度実績）しかありません。仮にすべての原発が再稼働したとしても、稼働期間40年で廃炉の原則に従えば、2050年にはほぼゼロとなり、脱炭素化を担う電源にはなりません。

また、発電コストが一番安い（経産省試算）といわれた原発ですが、安全対策費やテロ対策施設の設置など発電コストは膨らんでいきます。原発は、コストの面でも脱炭素化を担う電源とはいえなくなっています。

そもそも、核のゴミを出し続け、一度事故を起こせば莫大な被害をもたらす原発を、地球温暖化対策として使うべきではないと考えます。

(文責 事務局長 鈴木)

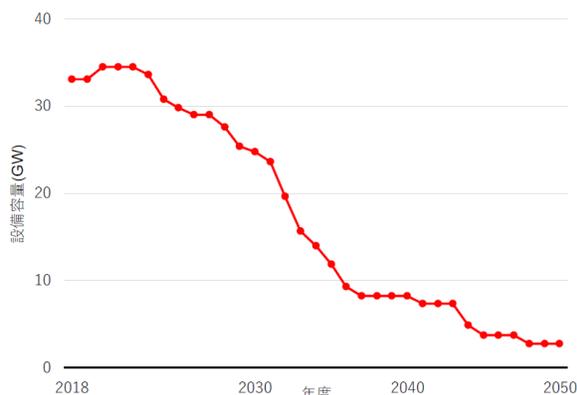


図 2-15 2050年までの原子力発電設備容量推移

注) 既存(33基)の再稼働による容量増加、廃炉計画公表済みの福島第二1～4号機、玄海2号機、女川1号機の運転終了に伴う容量減少をすべて2018年度末に反映

新設(2基)：島根3号機は2020年、大間は2026年に稼働開始と仮定(世界原子力協会ウェブサイト“Plans For New Reactors Worldwide – updated February 2019”による)

運転期間：美浜3号機、高浜1・2号機、東海2号機については60年(期間延長認可済みのため)、その他はすべて40年

出典) IAEA ウェブサイト“Power Reactor Information System - Japan”、(一社)日本原子力産業協会“Current Status of Nuclear Power Plants in Japan”(2019年3月4日)、世界原子力協会ウェブサイト“Nuclear Power in Japan – updated February 2019”を基に自然エネルギー財団作成